

No.56号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-18-1
虎ノ門10森ビル TEL 03-3580-0608

『お上から戴く教育から自立しましょう』

岐阜県社会教育委員連絡協議会会長

辻 欣一

日本国憲法 第89条
 公金その他の公の財産は、宗教上の組織若しくは団体の使用、便宜若しくは維持のため、又は公の支配に属しない慈善、教育若しくは博愛の事業に対し、これを支出し、又はその利用に供してはならない。

一口にいうと「家庭教育・社会教育は自分でおやりなさい」ということだと思えます。明治時代のはじめ太政官布告によって始まった学校教育は、約一三〇年を経て、世界に冠たる日本教育を築きあげることができました。しかし、学校教育の成果があまりにも立派であるため、家庭教育・社会教育が学校教育の陰に隠れ、親たちが「教育はお上の下さるもの」と思い込んでしまったのでは

ないかと思われます。

日本の教育は「学校・家庭・社会の三教育が協力」して推進すべきだといわれています。その結果、子どもの教育の責任者が明確でなく、事件が起きるたびに責任のなすり合いになっていきます。

平成一五年、私達の仲間では「子どもの教育の責任は親にある」という申し合わせをしました。問題の解決にあたって主体的に取り組むのは親だと言うわけです。

そうした中で今なぜ社会教育委員なのかというと、学校教育は手が一杯でどうにもならない状況です。今いろいろの問題の原点は「大人にある。」そのために私たち社会教育委員の活躍が期待されています。

昭和四六年給特法が施行され「先生の勤務時間中に部活動がやりにく

辻 欣一（つじ きんいち）

生年月日 昭和2年2月9日生まれ

昭和46・47年度 岐阜市立長良中学校PTA会長

昭和47年度 岐阜県PTA連合会 会長

昭和60年度 現在 岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長

岐阜県社会教育委員の会 議長

昭和46年 給特法施行と同時に、長良中学校部活動を社会体育に移行。

父母・学校と協力し、部活動の振興に努力した。



くなりました。」当時、岐阜市立長良中学校のPTA会長であった私は、校長先生と共に「父母参加の部活動」を始めました。三〇年前のことですが、親が力を合わせると大変な力になるんだなあと思いました。社会教育委員は、親の力を引き出すのが仕事だと思います。この力なしに日本の教育を立て直すのは不可能ではないでしょうか。

第46回全国社会教育研究大会(群馬大会)を終えて

第46回全国社会教育研究大会(群馬大会)は、「求められた社会教育の原点から今を考える」と主題を定め、昨年一〇月二七日から二九日の三日間の日程で、群馬県民会館を主会場として、一九〇〇名の参加者をお迎えし開会することが出来ました。

全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会を始め、ご支援いただきました皆様には心から感謝申し上げます。

初日は群馬交響楽団が昭和三二年に始めた「移動音楽教室」の姿を見ていただきました。続いて開会式の席上、長年社会教育委員として活躍された六七名の方に表彰状、二名の方に感謝状が全国社会教育委員連合会長より贈呈されました。

基調講演では、日本視聴覚教育協会会長(元文部事務次官) 井内慶次郎さんが、「社会教育―回顧と展望」と題し、「社会教育法」の条文をお作りになった際、お心に残った戸田貞三博士と鈴木健次郎さんのお話をされました。

当時、社会教育連合会の会長の戸



井内慶次郎先生

田先生からは、「社会教育は日常生活の中にある」「彼此共に同じ立場に立つ」「独りよがりでは成り立たない」の三点が特に心に残り、先輩であり上司であった鈴木健次郎氏からは「白鳥芦花に入る」「非凡は平凡の積み重ね」「社会教育の働きは地下水の働きにも似ている」と言われたとのことでした。

また、青少年の不良化防止の考え方について話されるなど社会教育の精神について熱く語られ、最後に「薪火伝う」と莊子の言葉を引用し、社会教育の精神が消えることなく伝わっていくことを期待される言葉で終わられました。

第二日目は、テーマごとに「社会教育委員の姿と今後の方向」「学社連

携・融合と青少年教育」「少子・高齢化社会と社会教育」「生涯学習とまちづくり」「自然理解と環境保全」「市民活動と社会教育」「市町村合併と社会教育」「社会教育施設とその連携」の八部会に分かれて、研究協議を行いました。

最終日は、ぐんま昆虫の森園長の矢島稔さんが「ヒトは自然の中で人に成る」と題して、記念講演を行いました。「一つのことに分かると次々に世界が広がる」と子どもの頃の体験の重要性を語り、その後、最近の茧ブームに生態系回復意識の有無を問い、また、ぐんま昆虫の森は生産性のある雑木林「里山」を子ども達に体験させること、その中で大切な昆虫採集是非論を熱く語られました。

続いて大会宣言が採択され、社会全体で子どもを育てる環境づくりや循環型社会の構築、そして、わが国の社会教育法の精神の大切さを改めて確認し、社会教育とともに育てていくことを確認しました。

最後に閉会行事が行われ、次年度



満席の会場(群馬県民会館)

北海道帯広で再会することを約束して大会を終了しました。皆様の熱意あるご協力のおかげで大会が出来ましたこと深く感謝致しております。

また、皆様からお預かり致しました新潟県中越地震の義援金一萬五七七〇円は、新潟県社連を通じて新潟県中越地震災害義援金配分委員会から被災された方々に届けられることになりました。たくさん募金をありがとうございました。

終わりに、来年度北海道大会のご成功をご祈念申し上げます。今大会の報告とさせていただきます。

群馬県社会教育委員連絡協議会

会長 大西康之

第47回（平成17年度） 全国社会教育研究大会〔帯広大会〕のご案内

◆大会の概要

1. スローガン 夢大陸・十勝野（とちのち）で培おうぬくもりのある地域（まち）づくりを！
2. 研究主題 新しい地域（まち）づくりのための社会教育を考える
3. 期 日 平成17年10月26日（水）～28日（金）
4. 主 会 場 帯広市（帯広市民文化ホール 帯広市西5条南11丁目48番地2）
5. 大会日程

【第1日】10月26日（水） 12：00から受付（帯広市民文化ホール）

- ◎開会行事 13：00～14：25
- ◎基調講演 14：30～15：30 *講演講師は文部科学省に依頼予定
- ◎アトラクション 15：45～16：30 *調整中

【第2日】10月27日（木） 9：15から分科会ごとに受付

- ◎分科会別研究協議 10：00～15：00（7分科会）
- 「今、求められている社会教育の活動」「家庭の教育力の向上とその支援」
- 「豊かな心を育む青少年活動の充実」「学習成果の活用とボランティア活動の促進」
- 「多様な学習ニーズに対応した学習機械の提供」
- 「スポーツ・文化活動によるコミュニティづくりの促進」
- 「住民に親しまれる社会教育施設の運営」

【第3日】10月28日（金） 9：15から受付（帯広市民文化ホール）

- ◎記念講演 10：00～11：30
*講師調整中
- ◎大会決意表明文採択 11：35～11：45
- ◎閉会行事 11：45～12：00

◆大会の特徴

わが国は、経済財政政策にとどまらず多くの分野で構造改革が行われています。加えて市町村合併が実施される年であり、社会教育を取り巻く環境も一段と厳しいものがあります。

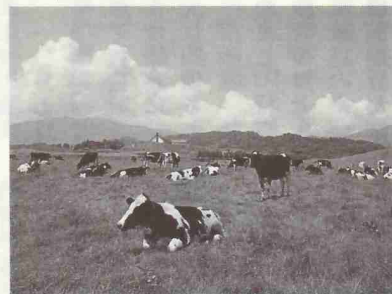
このような状況の下、第47回全国大会〔帯広大会〕の研究主題を「新しい地域（まち）づくりのための社会教育を考える」と設定いたしました。合併によって新しいまちとなった市町村と自立をめざす市町村があると思いますが、私ども社会教育委員は、新しい地域（まち）づくりのための社会教育について改めて考えてみたいと思います。また、第47回大会を迎えるにあたり北海道社教連では分科会領域5年継続研究を行い、その中から分科会の提言をしようという意気込みで取り組んでまいりました。記念講演講師等は鋭意調整中ではありますが、提言者・司会者・助言者の方々については内諾をいただいて順調に進んでおります。

開催地帯広市は広大な十勝平野の中央部に位置し、自然豊かなしかも四季折々の感動が体験できる北海道の姿そのもので、人口17万2千人の中核都市であります。帯広を中心に半径150km以内には北海道の中心都市である人口180万人の札幌市、東には丹頂鶴の釧路市、そして空の玄関新千歳空港をはじめ人工港でフェリー発着の苫小牧市、更には東京・名古屋・大阪と1時間半から2時間以内の空のアクセスが可能であります。しかも、帯広市には豊かな農産物や乳製品、地ビール等があり、何よりも空気の美味しいところでもあります。

平成17年度は、市町村合併や財政事情の逼迫化等による社会教育委員の削減も予測され、ある意味では「第47回大会は歴史的大会の初年度になるのでは」と心し、工夫を凝らして取り組んでいるところでございます。

全国各地から多数ご参加くださいますようお願いと併せてご案内申し上げます。

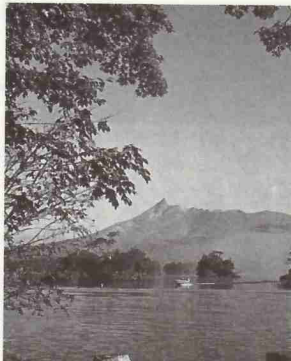
北海道社会教育委員連絡協議会
会長代行 関寺 恭朗



八千代牧場



市民育樹祭（帯広の森）



大沼国定公園から駒ヶ岳を望む

平成一六年度 地区別社会教育 研究大会

北海道地区

第47回全国大会に意気込みを！

北海道地区大会は一〇月六日・七日の両日、大沼国定公園を擁する『自然あふれる観光とりんごのふるさと七飯町』に、六一〇名が参加して盛大に開催されました。本大会は明年一〇月に、第47回全国社会教育研究大会が北海道において開催されることから、研究主題を全国大会と関連させて「新しい地域づくりに果たす社会教育委員の役割」と設定しました。

一日目の実践発表、分科会協議とも、研究主題に基づいた内容で大いに盛り上がりました。特に、分科会領域については、全国社会教育研究

大会に提言することを前提とした継続研究五年計画の集大成の年で、実践の成果やさらに発展させる方向で活発な意見交換が行われました。

二日目は、歴史・文化と異国情緒あふれる函館市の老舗レストラン株式会社五島軒社長 若山 直 氏による「少子高齢化社会の『共育』」と題した素晴らしい講演を拝聴し、大会決意表明文を採択した後に、全国社会教育研究大会（帯広大会）に組織を挙げて取り組むことを誓い合い、大会を成功させようという意気込みを示して幕を閉じました。

北海道社会教育委員連絡協議会

事務局長 黒崎 匡俊

東北地区

今こそ社会教育を見つめよう

東北地区社会教育研究大会は、「将棋駒といで湯とフルーツの里」山形県天童市において、一〇月七日～八日の両日、「豊かな生涯学習社会の発展のために今こそ社会教育を見つめよう」のテーマの基に、八七〇名が参加して盛大に開催されました。

一日目は、開会行事のあと、将棋の永世棋聖で、東京都教育委員でもある米長邦雄氏による「家庭の幸せ創ろう」と題した記念講演が行われ、豊かな人生経験を踏まえた幅広い視



開会行事

点からのユニークなお話を聞くことができました。その後、地元の中学生と保存会の伝承芸能「天童妙見太鼓」の発表が行われ、大人と子どもが一体となった見事な発表に、会場は大きな拍手と感動に包まれました。

二日目は、「青少年の奉仕・体験活動」「市町村合併と社会教育」など六分科会に分かれて、実践事例の発表と活発な研究協議・意見交換が行われました。最後に、社会教育の重要性を改めて認識し、これからも社会教育の振興に積極的に取り組むとの大会宣言を満場一致で採択し、大成功のうちに大会を終了しました。

山形県社会教育委員連絡協議会

会長 舛田 忠雄

東海北陸地区

「千人を超える参加者を得て」

第三五回東海北陸社会教育研究大会は、一〇月二一～二二日の両日、福井県敦賀市のプラザ萬象を主会場に、「新しい社会の変化に対応した地域社会づくりをめざして」をテ

マに掲げ、一〇五〇名の参加者の下、盛大に開催されました。

オープニングは、地元敦賀市の生涯学習グループ「氣比民謡会」が、玄人はだしの民謡と踊りを披露し、拍手喝采を浴びました。



オープニング

また、京都市立伏見工業高校のラグビー部を日本一に導いた山口良治氏（福井県美浜町出身）による記念講演「熱き感動を求めて」は、指導者の熱い思いが子どもを変貌させることを自らの体験から語り、参加者一同深い感銘を受けました。

二日目は、七つの分科会で「地域社会全体での子育て支援」「高齢者の生きがい高める社会参加活動」「地域の特色を生かした魅力あるまちづくり」などについて、現場の社会教育活動を踏まえた活発な意見交換や討議が行われ、参加者には充実した成果を持ち帰っていたいただきました。

福井県社会教育委員連絡協議会

会長 馬野 一司

近畿地区
生涯学習の先駆け

石田梅岩誕生の地で開催

近畿地区大会は、「新しい心豊かな地域の創造をめざして」社会教育委員に期待されるもの」を研究主題に、平成一六年九月一四日～一五日、京都府亀岡市で約一三〇〇名の参加を得て開催された。

開会行事に続き、南丹ゴールデンエイジ混声合唱団「まゆみ」の透き通った歌声と、かめおかテレノ・トノ・アンサンブルの美しいオカリナ演奏を鑑賞した。

文部科学省久保田達也専門官による「子どもの居場所づくり」についての基調講話の後、千玄室裏千家前家元に「日本の心 茶の心」と題して御講演いただき、生涯学習社会の実現に向けた今後の社会教育活動について、多くの御示唆を与えていただいた。

第二日目には、①青少年教育(シ



シンポジウム

ンポジウム)②人権教育③家庭教育④文化・スポーツをそれぞれテーマとして四つの分科会を開催し、会場からも活発に質問や意見が寄せられ、熱心な研究協議が展開された。

さらに本大会では、学習活動、社会参加活動を進めることを通して、すべての人々が生き生きと暮らすことのできる心豊かな地域づくりに力を尽くす大会宣言も満場一致で採択された。

中国・四国地区

京都府社会教育委員連絡協議会
会長 福知 正温

新たな社会教育の創造を目指して

第二七回中国・四国地区社会教育研究大会は、同地区の社会教育関係者六五〇名が平成一六年八月二六日～二七日に呉市文化ホールに会し、「地域住民と行政が協働する社会教育の在り方を考える」という大会テーマのもとに研究協議した。

大会初日は、開会式に続いて記念講演として日本女子大学・田中雅文教授から「地域住民参画による、新しい時代の社会教育の在り方」と題し、新しい時代の社会教育の政策課題に対応する「参画から協働へ」の推進戦略の転換の論拠と指針を明示いただいた。午後は、四分科会に分かれ、市町村合併に伴う行政制度の



開会行事

変化、地域社会の少子化・高齢化への対応及び人権教育の充実について協議した。

二日目は、初日の分科会報告を持ったあとで、地域のボランティア、NPO、大学教員及びネットワーカーなど四氏によるシンポジウムを開催し、「地域の協働による学習コミュニティづくり」について研究を深めた。そして、最後に全体会において大会宣言を採択・発表し閉会した。

広島県社会教育委員連絡協議会
会長 池田 秀男

九州地区

子育てまちづくりの実現に向けて

第三四回九州ブロック社会教育研究大会は「住民参加の『公共』づくりをめざす社会教育の推進」子育てまちづくりを中心とするという大会テーマを掲げ、十一月一日から二日の二日間、一五〇〇名を超える参加者を得て、長崎市で開催し、盛

会のうちに終了した。

大会一日目は、「家庭教育を支援するまちづくり」地域を進める青少年教育「開かれた学校と地



域の支援」温もりのあるやさしいまちづくり「生涯学習のまちづくりと社会教育委員の役割」の五つのテーマごとに分科会を開催した。先進的な実践事例発表をもとに、子育てまちづくりを実現するため、学校・家庭・地域・行政が、今後どう取り組めばよいか、熱心な議論が交わされ、その実現に向けて参加者の意識の高揚が図られた。

また、大会二日目の全体会では、各分科会の協議内容の報告に続き、島根大学の高岡信也教授による「住民参画のまちづくり」『学社融合がキーワード』という演題での講演が行われ、「子どもを中心にした社会教育の取組みを」という呼びかけに多くの参加者の賛同を得た。

長崎県社会教育委員連絡協議会
会長 立岡 誠

地域教育力再生プラン

「ボランティア活動やスポーツ・文化活動を
通じた地域教育力の再生」

文部科学省 生涯学習政策局

【趣旨】

社会の構造や環境の変化に伴う住民の地域社会への帰属意識の希薄化などにより、近隣住民間の連帯感の欠如や青少年の問題行動の深刻化などを背景とした、子どもたちの安全・安心な遊び場の不足（青少年の異年齢・異世代間交流の不足、青少年の奉仕・体験活動の不足）、スポーツに親しむ機会の減少、多様な文化体験活動に触れる機会の減少等が指摘されており、地域の教育力の再生を図る多様な機会を提供することが国として喫緊の課題となっています。

【事業の内容】

1 運営協議会の設置

行政関係者、社会教育委員、学校教育関係者、PTA関係者、青少年・スポーツ、文化団体関係者、NPO、ボランティア団体関係者などで構成される運営協議会を設置し、都道府県内における事業実施の検討、広報活動の推進、指導員等の研修会の企画及び開催、事業実施後の検証・評価等を行います。

2 地域子ども教室推進事業

「一六年度 四、〇〇〇ヶ所
一七年度 八、〇〇〇ヶ所」
学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所（活

動拠点）を設け、地域の大人、教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者等を、安全管理員・活動アドバイザーとして配置するとともに、市町村レベルにコーディネート等を配置し、親に対する参加の呼びかけや学校や関係機関・団体との連携協力による人材の確保・登録を行うほか、登録された人材を子どもの居場所へ配置し、小・中学生を対象とした、放課後や週末における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を実施するとともに、特に週末においては、地域の専門的知識や技能を有する人材を講師などとして活用した「週末チャレンジ教室」を実施し、子どもたちにとって、より高度で魅力的な学習活動、体験活動の機会を提供します。

3 地域ボランティア活動推進事業

「一七年度 七〇五地域」
地域におけるボランティア活動の全国展開を推進するため、以下の事業を実施します。

（一）高校生対象事業（二七六地域）

年間を通じて定期的又は長期休業期間中におけるボランティア活動を行うとともに、高等学校における単位化につながるボランティア活動を

（二）市町村ぐるみの事業（三三五地域）

市民全般を対象とするとともに、大学生や企業人をも対象とした、定期的又はある程度長期にわたったボランティア活動を行うなど、地域の特色を活かしたボランティア活動を実施します。

（三）ボランティア活動支援センターの機能の充実（九四地域）

地域の大学、企業等との連携・協力を図り、支援センターの機能を「行政」から「民間」へ引き継ぐ方策を導き出すための事業を実施します。

4 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

「一六年度 二〇〇ヶ所
一七年度 四〇〇ヶ所」
全国的な組織基盤を有する民間スポーツ団体を活用して、総合型地域スポーツクラブの効率的な育成を推進するため、以下の事業を実施します。

（一）総合型クラブ育成推進協議会等の開催

総合型クラブの育成に関する理解を深めるための協議会等を開催しま

す。

(2) 総合型クラブ育成支援事業の実施

総合型クラブの設立に向けた基幹的活動に対する支援を行います。

(支援期間・二年間)

- ・ 設立準備委員会の開催
- ・ スポーツ指導者、クラブマネージャーの配置
- ・ スポーツ交流大会の開催 など
- 育成計画・四〇〇ヶ所
- (継続二〇〇ヶ所 新規二〇〇ヶ所)

(3) 総合型クラブ育成アドバイザー等の養成・派遣

総合型クラブの育成に関して高度なノウハウを有する者(クラブ育成アドバイザー)の配置による育成対象クラブの巡回・指導及び資質向上のための研修会を開催します。

(4) 総合型クラブ育成情報提供事業の実施

総合型クラブの育成に関する各地域の取組事例などクラブづくりに関与する情報の提供を行います。

5 文化体験プログラム支援事業

へ一六年度 四七地域

↓一七年度 九四地域

子どもたちが日常の生活圏の中で、

年間を通じて、例えば日頃鑑賞のみになりがちな舞台芸術について舞台衣装を着たり楽器を鳴らすなど直接触れあい体験できる機会や、伝統芸能・伝統工芸の様々な所作や道具に触れる機会を提供するなど、普段身近にあってもなかなか触れることのできない地域の特徴ある芸術文化、伝統文化、文化財等の様々な文化に触れ、体験するプログラムを作成し実施することにより、子どもたちの豊かな人間性と多様な個性を育みます。

【終わりに】

文部科学省では、社会教育委員の皆様をはじめ地域の関係機関・関係団体等の協力を得て、「地域教育力再生プラン」を全国的に進めていきたいと考えています。

皆様方におかれては、本プランの趣旨をご理解いただくとともに、地域の教育力を向上させるべく、今後とも教育行政にご尽力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

(社会教育課 下村善量)



ママも大学生

もうすでに教養学部、大学院あわせて3万人以上の方が卒業されています。

ご自宅(テレビとラジオ)でマイベースに受講できます

4月入学生募集集中

— 出願受付期間/平成17年2月28日(月)まで —

「子育てもようやく一段落。娘も無事にこの春に大学に入学。冗談で“ワタシも勉強しちゃうかな!”って言ったら娘も主人も大賛成。背中を押されて始めた放送大学の受講。短大を卒業しているから、3年からスタートでき、マイベースで学んでいます。母娘で大学生活を楽しんでいる毎日です。」

- 教養学部** ▶ 入試不要。学士の単位が取得できます。
- 約300科目(人文・社会・自然・産業等)から選べます。
 - お好きな1科目からでも学べます。
 - 15歳以上なら選科・科目履修生として入学できます
 - 短大・専門学校卒業なら3年次編入学ができます。
- 大学院(修士選科生・科目生)** ▶ 入試不要。
- 総合文化・政策経営・教育開発・臨床心理の4つのプログラムの開設科目から学べます。
 - 18歳以上であれば入学でき、1科目からでも学べます。
 - 現職教員の方の専修免許状等取得に利用できます。

大学院(文化科学研究所・修士の学位が取得できます)修士全科生/平成18年4月入学の募集について
●募集人員/500名 ●出願受付予定/平成17年9月上旬 ●入学者選考実施 *平成17年4月生の募集は終了しています。

資料のご請求はお気軽にどうぞ(月曜～金曜/午前9時～午後5時まで)

放送大学

0120-864-600
http://www.u-air.ac.jp

テレビ(UHF16ch)、ラジオ(FM77.1MHz)、スカイパーフェクTV!、ケーブルTVで放送中

「社教連」だより

平成一六年度第二回総会及び
理事会を全国大会にあわせて開催
第二回総会

平成一六年一〇月二八日午後三時
三〇分から第二回総会が前橋商工会
議所会館において開催されました。

第一号議案 平成一七年度全国社
会教育研究大会（帯広大会）の開催
について。

北海道から開催要項案を説明。平
成一七年一〇月二六日（水）二八
日（金）の三日間、帯広市での開催
が原案のとおり承認されました。
（本紙三ページ参照）

大会宣言

ここ、「鶴舞う形」と詠われる群馬県において、大会
スローガン「生涯学習社会に新たな風を！」、研究主題
「求められた社会教育の原点から今を考える」を掲げ、
第46回全国社会教育研究大会を開催いたしました。

いま、私たちは、青少年非行の増加、少子・高齢化
の進展、環境問題、市町村合併など、様々な問題を抱
えております。これらの問題を解決し、新しい社会を
創造していくために、市民活動の活性化や地域社会の
再生などが強く求められております。

こうしたなか、本大会では、全国各地から実践事例
や研究成果を持ち寄り、研究協議を深めました。

これらの成果を踏まえ、本大会の総意として、次の
ことに積極的に取り組みます。

- 一 家庭の教育力を高めるとともに、地域ぐるみで
青少年の健全育成や事故防止に努め、社会全体で
子どもを育てる環境づくりを進めます。
 - 一 それぞれの家庭、地域において環境保全への理
解を深め、循環型社会を目指します。
 - 一 地方分権や市町村合併など大きな時代の変化の中
で、幸福な生涯学習社会を構築していくため、
わが国の社会教育法の精神の大切さを改めて確認
し、社会教育をともに守り育てます。
- 以上、水と緑と詩のまち、前橋市において宣言します。

平成16年10月29日

第46回全国社会教育研究大会（群馬大会）

第二号議案 平成一八年度の全国
大会開催地区について。

開催地区の輪番によると東海北陸
地区となっており、東海北陸地区馬
野一司会長から開催を引き受ける旨
の発言があり、承認されました。

その他 ①全国大会の北海道地区
の開催年について。

現在北海道は、七年に一回、全国
大会を実施しているが、これを二二
年に一回程度にしてみたいとの
要望が北海道から出されました。

審議の結果、一五年に一回の割合
で実施することで承認されました。
②平成一八年度全国大会の開催期日
及び日程について。

全国大会開催予定県である富山県

から、諸般の情勢から日程を実質二
日間にする開催要項案を説明。原案
に対し、分科会縮小は適当でない等
様々な意見が出され、次回総会に再
提案することとなりました。

③平成一八年度予算及び事業の検討
等について。

○小杉山専務理事の説明
一七年度の大会予算は前年度並に
執行。一八年度以降については今後
検討。二〇年度の全国大会は第五〇
回目の記念すべき大会となる等。

○大橋会長の発言
・第五〇回大会を見越しながら一八
年度以降の事業を見極めていきたい
・基本金の金利が大幅に低くなり、
会の運営はかなり厳しくなる。各県
の負担金を八万円に増額することは
可能か考えてもらいたい。

・分権化の中で社会教育委員の存在意
義を問われている。プロジェクトをつ
くり根本的に考える時がきたのではな
いか。このような中で社会教育研究大
会は是非守り続けていく必要がある。

第二回理事會

平成一六年一〇月二七日午後五時
から第二回理事會が群馬県民会館に
おいて開催されました。

総会の前日に行われた理事會では
理事會専権事項である次の第二号議
案の外の審議内容及び結果とも前掲、

社教連制定

社会教育委員バッジ



ピン式（男女兼用）
頒布価額一五七五円

お申込みは直接社教連へ
03-3580-0608

近日刊行

「社教情報」No.52

特集 変革期における
社会教育

定価350円
（本体333円＋税）

（財）全日本社会教育連合会
☎ 03-3580-0608

総会とほぼ同様でありました。

第三号議案 資産運用管理規定の
制定について。

当委員連合の健全経営に資するこ
とを目的とする資産運用管理規程
（理事會の権限と責任等）の新たな
制定について、小杉山専務理事から
提案説明があり、審議の結果、原案
のとおり承認されました。

平成一七年度第一回理事會・総会
日時 平成一七年五月二三日（月）

午前一〇時三〇分 理事會

午後一時三〇分 総会

会場 ホテル・プロラシオン青山
後日正式のご通知を発送します。